

【1】令和6年度 教育調査の結果について

このことについては、本校の学校だより（『西宮だより』令和6年度2月号）において、保護者や学校運営協議会にお示ししました。令和7年2月20日（木）には本校において学校関係者評価委員会が行われ、教育調査の分析に基づいた自己評価（教育活動の成果・課題、改善策等）について、学校側から委員の皆様 に説明をしました。この度、【1】「教育調査の結果」と【2】「自己評価・学校関係者評価」につきまして、本ホームページ上で公表いたします。

1 生徒対象の教育調査の結果

教育調査（生徒対象）の結果（肯定率）＊青字は前年度の肯定率を上回ったもの 回答率：87.4%(R4) 90.0%(R5) 91.3%(R6)

	質問内容	本校肯定率の推移		
		R4	R5	R6
1	先生は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	85.6%	86.2%	84.6%
2	授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	55.7%	55.6%	61.1%
3	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	43.0%	41.2%	53.3%
4	授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。	49.8%	53.4%	57.1%
5	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	78.4%	81.7%	84.6%
6	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	85.6%	80.7%	84.6%
7	先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	73.1%	74.6%	79.6%
8	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	91.1%	93.6%	94.7%
9	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	80.3%	76.2%	79.9%
10	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	78.0%	77.5%	82.4%
11	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	73.4%	74.9%	80.9%
12	学校や家などで、1か月に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ。	80.7%	84.9%	81.8%
13	地域の行事に参加している。	23.9%	24.4%	33.2%
14	先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	42.6%	46.9%	56.1%
15	先生は、整理・整頓や清掃について、話をしたり考え（活動）させたりしている。	58.4%	61.4%	72.1%
16	先生は、体験的な活動や調べてみる学習に進んで取り組めるように指導をしてくれている。	70.3%	67.2%	73.4%
17	先生は、あいさつの励行やきまりを身に付け、学校生活が向上するよう指導をしてくれている。	78.2%	83.0%	88.7%
18	先生は、学級活動や生徒会活動・学校行事に進んで取り組めるように指導をしてくれている。	80.2%	76.8%	83.7%
19	先生は、将来の進路や生き方・働くことの意味について、先生や友達と相談したり、考えたりすることができるよう指導をしてくれている。	73.3%	70.4%	73.4%
20	先生は、いじめや仲間はずれなどがなく、相手の立場を考え、互いに協力し合える関係がつかれるように指導してくれている。	79.2%	76.5%	80.6%
21	先生は、相談にのってくれたり、意見を尊重したり、励ましたりしてくれている。	68.3%	75.6%	78.7%
22	先生は、学校生活が充実し、楽しめるように指導してくれている。	78.2%	78.5%	81.2%
23	友達や先生に対して、気持ちの良いあいさつができています。	80.2%	78.8%	80.3%
24	学級・学年活動や生徒会活動・部活動を通して、自分の役割を果たし、自己の有用感や成就感を味わっている。	73.3%	71.1%	73.4%
25	ICTを活用した授業では、発言・発表の機会を増やし、生徒が互いに学び合う活動を多く取り入れてくれている。	84.2%	71.7%	76.2%
26	小中連携における小学生と中学生の交流や、上級学校訪問などを通しての進路学習を進めることは、とても意義のあることである。	69.3%	57.6%	64.9%
27	中学生レスキュー隊や地域の祭礼・行事等でのボランティア活動へ積極的に参加している。	37.6%	28.9%	32.0%
28	先生方は、生徒の呼び方や生徒への声掛けの際の言葉遣いに、十分気を配っている。	79.2%	73.3%	76.8%

2 保護者対象の教育調査の結果

教育調査（保護者対象）の結果（肯定率） * 青字は前年度の肯定率を上回ったもの 本校の回答率：49.0%(R5) 48.3%(R6)

	質問内容	本校肯定率の推移		区全体
		R 5	R 6	R 6
1	子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている。	60.9%	65.1%	57.2%
2	子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている。	70.4%	73.8%	65.9%
3	子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる。	53.8%	48.8%	48.0%
4	学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。	46.7%	48.3%	47.3%
5	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	45.0%	52.3%	43.2%
6	子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。	66.3%	70.3%	66.3%
7	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。	30.2%	29.7%	33.0%
8	学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある。	53.3%	54.7%	40.9%
9	学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している。	75.1%	77.9%	64.0%
10	学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている。	89.3%	89.0%	85.9%
11	学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかわかり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている。	53.8%	58.1%	43.8%
12	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。	36.1%	47.7%	37.4%
13	学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。	17.8%	12.8%	25.4%
14	子どもは、学校生活を楽しんでいる。	75.1%	79.7%	70.1%

3 学校運営協議会委員対象の教育調査の結果

教育調査（学校運営協議会委員対象）の結果（肯定率） * 青字は前年度の肯定率を上回ったもの 回答率：90.0%(R4) 100%(R5) 90.0%(R6)

	質問内容	本校肯定率の推移			区全体
		R 4	R 5	R 6	R 6
1	子どもたちは、学ぶ楽しさを実感しながら、問いや課題を自分なりに立て、自分なりの方法で解決したり探究したりする力が育っている。	100.0%	90.0%	100.0%	83.3%
2	子どもたちは、違いを認め合って共に生きる大切さを実感しながら、それぞれの得意を生かしたり、苦手を補い合ったりする力が育っている。	88.9%	80.0%	77.8%	81.7%
3	教員は、全ての子どもが共に学ぶ中で自分らしく成長できるよう、それぞれの経験や専門性を生かし合っている。	88.9%	90.0%	88.9%	74.2%
4	学校は、全ての子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭や地域、民間の団体や企業等と連携している。	100.0%	80.0%	88.9%	78.3%
5	児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちによって、その時々の学びや生活の必要に応じ、選択的に活用されている。	88.9%	90.0%	100.0%	75.8%
6	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。	77.8%	50.0%	55.6%	53.3%
7	学校では、校長を中心に、教育目標や目標達成の基本方針、指導の重点について家庭・地域と協議し、子どもたちの思いや願いを尊重する教育課程を編成している。	100.0%	100.0%	100.0%	87.5%
8	学校では、授業や行事、学校生活の内容や進め方について、子どもたちが、学びや生活の主体であることを実感しながら、自分たちで考えたり教職員（学校関係者を含む）と話し合ったりしている。	100.0%	90.0%	100.0%	83.3%

4 教員対象の教育調査の結果

教育調査（教員対象）の結果（肯定率）＊青字は前年度の肯定率を上回ったもの 本校の回答率：100%(R5) 100%(R6)

	質問内容	R 5 肯定率	R 6 肯定率	
		本校	区全体	
1	授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている。	52.2%	72.7%	67.8%
2	授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている。	56.5%	68.2%	54.2%
3	授業では、児童・生徒一人ひとりの学びに合わせて、「わからない」を解決するための指導・支援をしている。	87.0%	86.4%	76.3%
4	学級の全体に関わることは、児童・生徒が自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめながら決められるようにしている。	78.3%	90.9%	76.6%
5	学校生活で児童・生徒が疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意したりしながら変えられるようにしている。	91.3%	90.9%	70.8%
6	学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。	69.6%	90.9%	70.8%
7	児童・生徒が、自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。	69.6%	72.7%	61.4%
8	連携する小・中学校による小中一貫教育（各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	65.2%	86.4%	54.9%
9	教員である自分自身が身に付けたい資質・能力について、必要な学びが得られており、学び続けることができている。	82.6%	90.9%	71.5%
10	子どもと向き合う時間が確保できている。	52.2%	63.6%	51.9%
11	タイムマネジメントを意識して勤務できている。	43.5%	40.9%	50.8%
12	勤務する学校は、働き方改革に意識的に取り組んでいる。	30.4%	36.4%	45.8%
13	誇りややりがいをもって仕事を行うことができている。	82.6%	90.9%	74.6%
14	ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができている。	39.1%	31.8%	38.3%
15	スクール・サポート・スタッフの活用が負担軽減につながっている。	87.0%	86.4%	84.7%
16	児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちが学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。	82.6%	86.4%	73.2%
17	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫を行っている。	65.2%	50.0%	46.4%
18	授業や行事、学校生活全般において、その内容や進め方を、児童・生徒が自らを学びの主体であると実感しながら、自分たちで考えたり教職員及び学校関係者と話し合ったりできるようにしている。	87.0%	90.9%	67.1%

【2】杉並区立西宮中学校 令和6年度 自己評価・学校関係者評価について

教育調査の結果に基づく自己評価と学校関係者評価委員会が出た各委員からの意見・感想及び質問等について、学校側の回答とともに「学校関係者評価の結果」としてまとめました。

1 教育調査の分析【自己評価】

（1）生徒対象

- 全 28 項目のうち、26 項目で昨年度の数値を上回った。
- 肯定率が 50%未満の項目は、「【質問 13】の地域行事、【質問 27】のボランティア活動」であった。なお、生徒対象の教育調査は他の教育調査とは異なり、済美教育センターが実施するものではなく本校独自の調査のため、区全体の肯定率は出ていない。
- ・「【質問 13】地域行事」の肯定率は 33.2%、「【質問 27】ボランティア活動」の肯定率は 32.0%であった。今年度も本校の有志生徒やボランティア部、生徒会本部役員等による「ホタル祭りクリーンボランティア」への参加や「高井戸第二小学校の運動会支援」、「ふれあい運動会支援」等の活動が実施できた。特に「ホタル祭りクリーンボランティア」には例年の倍近い 84 名の生徒が早朝の清掃活動に参加した。また、杉並区中学生レスキュー隊の活動では、合同訓練や東京消防庁の防災施設での見学及び防災体験、西宮中学校震災救援所の役員の皆様の指導を受けて年 3 回の訓練等を行うことができた。今後はさらに多くの生徒がこのような活動に参加できる方法を工夫していきたい。

（2）保護者対象

- 全 14 項目のうち、区の肯定率の平均を上回った項目は 12 項目である。
- 区の平均を下回った項目は「【質問 7】多様な場や道具の選択」と「【質問 13】特別支援学校・学級との交流」の 2 つであった。
- 本校だけで比較すると、全 14 項目のうち、10 項目で昨年度の数値を上回った。
- 肯定率が 50%未満の項目は、「【質問 3】人権に関する多様な価値観、【質問 4】企業等と連携した学び、【質問 7】多様な場や道具の選択、【質問 12】きめ細やかな支援、【質問 13】特別支援学校・学級との交流」であった。なお、肯定率が低い原因の多くは否定的な回答が多いからではなく、回答の選択肢の「どちらともいえない」や「回答できない」と答えた割合が高いことにある。こうした状況を改善するために、今後も積極的に学校の実践を発信していく。なお、各項目の実践は次のとおりである。
- ・「【質問 3】人権に関する多様な価値観」の肯定率は 48.8%であった（区平均 48.0%）。本校では道徳や各教科及び特別活動等において理解を深めていることに加え、第 3 学年では 6 月に震災救援所運営連絡

会の皆様のご尽力により、「防災授業」を実施し、身体に障害をもつ方々を想定した車椅子操作法や仮設ベッドの設置方法等を学ぶなどした。

- ・「【質問 4】企業等と連携した学び」の肯定率は 48.3%であった（区平均 47.3%）。第 1 学年は 6 月に講師を招いて「生き方学習」を実施し、生徒たちにとって身近なコンビニを例に取り上げ、社会の動きや仕事の内容について学習した。生徒は「自分と社会のつながり」や「自分自身の適性や興味・関心」について考える機会となった。また、第 2 学年では 7 月に「職場体験学習」を 3 日間実施した。その事前学習として東京工業大学大学院の教授を講師に迎え、働くことの意義や社会ではどのような人が必要とされているか、さらにそのためには中学校でどのような力をつけておく必要があるのかについて学ぶ機会をもった。
- ・「【質問 7】多様な場や道具の選択」の肯定率は 29.7%であった（区平均 33.0%）。今年度は全学級に最新の電子黒板が設置され、授業を実施する上で利便性が大きく向上し、生徒にとっては協働的な学びが促進されるなど教育効果がぐいに高まった。また、定期考査前には学校支援本部による自主学習の場「アフタースクールスタディ」を実施している。夏季休業中には自主学習教室等を行っている。さらに、再登校による部活動を実施する際には、住居が遠い生徒を対象に待機場所を設けている。小学校とは異なり、中学校という資源が限られている環境の中で、今後も最大限の工夫と努力を重ねていく。
- ・「【質問 12】きめ細やかな支援」の肯定率は 47.7%であった（区平均 37.4%）。本校では普段の学校生活における教員による見守りに加え、ふれあい月間アンケートや教員とのおしゃべりウィーク、WEBQU テストなどを実施して生徒理解を深め、様々な問題の未然防止・早期発見に努めている。スクールカウンセラーについては、今年度は 1 名増員して計 2 名体制とした。また、生徒支援のための教員や大学生・大学院生を配置し、個別に支援できる体制を整えている。さらに情報等については校内で共有し、スクールカウンセラーや巡回心理士、関係機関とも連携を図りながら組織的に対応している。
- ・「【質問 13】特別支援学校・学級との交流」の肯定率は 12.8%であった（区平均 25.4%）。特別支援教育については、巡回の特別支援教室教員や済美教育センター及び特別支援教育課等をはじめとする関係諸機関と連携し、特別な支援が必要な生徒及び保護者には様々な情報を伝えているが、一般の生徒及び保護者にとっては情報に触れる機会が少ないと感じていることが考えられる。なお、本校のボランティア部は、杉並第十小学校を会場に「ふれあい運動会」に毎年参加し、障害をもつ子どもたちと交流を深めている。こうしたことについて、さらに情報発信をしていく必要がある。

（３）学校運営協議会委員対象

○ほとんどの質問項目で肯定率が 80%を上回り、高い評価をいただいた。

○肯定率 80%を下回った項目は 2 つであった。

- ・「【質問 2】違いを認め合い苦手を補い合う」の肯定率は 77.8%であった（区平均 81.7%）。各学級では委員会や係活動、学年単位では学校行事等において実行委員会を組織するなどし、子どもたちが活躍する場を保証している。このような活動を通して子どもたちの自尊感情が高まるよう支援するとともに、自分の責任を果たそうとする意識を高めるよう指導している。また、学活や道徳をはじめ様々な教育活動の中で、子どもたちはお互いに協力することの大切さや相手を認め合うことの重要性について学んでいる。今後も子どもたちがお互いを認め合い補い合える関係を高められるよう、一層の努力を重ねる。
- ・「【質問 6】多様な場や道具の選択」の肯定率は 55.6%であった（区平均 53.3%）。保護者の欄（【質問 7】に対する分析）で述べたとおり、これからも最大限の工夫と努力を重ねていきたい。

（４）教員対象

○全 18 項目のうち、区の肯定率の平均を上回った項目は 15 項目である。

○区の平均を下回った項目は「【質問 11】タイムマネジメント」、「【質問 12】働き方改革」及び「【質問 14】ワーク・ライフ・バランス」の 3 点であった。

- ・「【質問 11】タイムマネジメント」の肯定率は 40.9%（区平均 50.8%）、「【質問 12】働き方改革」の肯定率は 36.4%（区平均 45.8%）、「【質問 14】ワーク・ライフ・バランス」の肯定率は 31.8%（区平均 38.3%）であった。教員が誇りや情熱そして使命感をもって職責を全うすることが、子どもたちの幸せにつながると私たちは確信し、どの教員も時間を惜しむことなく日々職務に邁進している。一方で、教員の長時間労働は看過できない問題である。本校では働き方改革を受け、「部活動活性化事業や部活動指導員、部活動外部指導員の導入」、「採点システムの導入」、「多機能印刷機の導入」及び「スクール・サポート・スタッフの活用」等により教員の負担を軽減する取組を行っている。また、「20 時完全退勤の呼びかけ」、「週に 1 度の定時退勤の呼びかけ」等により業務の優先順位を意識付けさせ、業務の効率化を図っている。さらに来年度に向けて、読み書きに困難を抱えていたり、不注意、多動性、衝動性により校内において不適応の場面がある生徒を対象とした通常学級支援員の配置を特別支援教育課に申請している。

2 委員からの意見及び質問等【学校関係者評価】

日 時：令和7年2月20日（木） 17：00～18：30

会 場：杉並区立西宮中学校 2 階図書館

<記号の説明>

○：委員からの意見・質問 →：学校からの回答 ●：出席者からの意見・感想等

- 保護者対象の質問項目 7 番及び学校運営協議会委員対象の質問項目 6 番「学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。」について、具体的に何を指しているのかが分からないため回答しにくかったのではないかと思います。しかし、学校は様々な施設と人材を工夫して活用している。例えば学校図書館では、国語、社会、理科などの様々な授業を教員と学校司書とが協力して行っている。図書館での授業ではどのような資料が必要なのか、教員と司書とが事前に綿密な打ち合わせを行っている。そして授業で生徒が図書館に行くと、その資料が豊富に用意されている。このような状況は、普段の授業を見てもないと保護者等にはなかなか伝わらないのではないかと思います。

- それに関連して、学校は電子黒板の導入やアフタースクールスタディ、夏季休業中には自主学習教室を行っているなど、きちんと必要な設備と生徒への支援はされていると思う。しかし数値的なことから考えると、設備面において校舎の古さが足を引っ張ってしまっているように思える。

- 今、学校側から教育調査の結果とその分析について説明があった。学校側が課題として捉えていることについて適切に分析を行い、我々に対して説明してくれたのでとても納得している。この分析結果とそれに対する課題をもとに、次年度の教育課程を校長先生が策定してくださるものだと思う。

- 教員の負担軽減で採点システムを導入したとの話があったが、それは A I によるものなのか。

→ 現在のシステムは A I とまではいかない。文章をコンピューターが判断して採点するシステムではない。このシステムは、答案用紙をスキャンしてパソコンに取り込み、パソコン上で採点するものである。具体的には、同じ問題に対する解答欄だけをパソコンの画面上に表示することで、一斉にその回答を目視することができる。文章による解答は自動採点ができないが、記号やアルファベットなどについてはパソコンが自動で認識してくれる。画面上に同一問題の解答が一斉に表示されるので、正解しているものと不正解のものとが一目瞭然となり、正解しているもの（または不正解のもの）を選択すると一斉にかつ瞬時に採点してくれ、飛躍的に採点時間が短縮された。これにより、教員の負担感はかなり軽減されている。

○ 採点システムと多機能印刷機は P 協でも学校に導入したらいいと思っていたが、西宮中ではいつから導入されたのか。

→ 採点システムについては、杉並区では昨年一斉に導入した。本校ではそれに先駆けて前もって独自予算で購入して導入した。多機能印刷機は区内において本校が試用期間として先行導入している。しかし、本来使用していたプリンターのリース期間の関係で、この多機能印刷機は今年度末をもって一度引き上げられることになっている。この多機能印刷機はレーザープリンターではなくインクジェットタイプなのでランニングコストはぐっと安くなる。

● カラーだととても見やすく、生徒や保護者にとって見やすいし大変ありがたいと思う。

→ レーザープリンターはトナー代が高価なのでカラー印刷は極力控えている。

インクジェットタイプはレーザーと比べて安いので、カラー印刷がしやすくなる。例えば、テスト問題で写真や資料などがカラーで印刷されていれば、白黒印刷のものよりも生徒にとってはとても見やすくなるという利点がある。

● 色が付いているということは表現が広がるのでとてもありがたいことだ。

● 生徒対象の教育調査に関しては、全体的に高い数値の項目が多く、子どもたちが今の西宮に満足している様子がうかがえた。一方で、学校や授業以外の項目、特に地域行事に関して数値が低いように思う。これは、クリーンボランティアが地域行事であることを、私が P T A 役員をしていた頃を思い出しても「地域行事」として発信はしていなかったように記憶している。生徒からすると「クリーンボランティア」という認識しかないように思う。「地域行事」であることを発信していくことも大切なことのように思った。

● 教員対象の教育調査に関して、この数値にとっても感動した。こんなに高い数値が出るとは、西宮中教職員の意識の高さに感謝したい。教えることに関してはとても高い数値で、教職員間で話し合いや互いに切磋琢磨できている部分が見受けられる。反面、タイムマネジメントやワーク・ライフ・バランスのとれた生活ができていない、という項目が突然低い数値であることが気がかりである。その日のうちに終えなければならない仕事が、何かしらの理由で中断を余儀なくされて時間内に終わらないのだろうか。午後 8 時までには退勤するよう管理職から言われているようだが、朝が早い教員の仕事から考えると、退勤から翌日の出勤までの時間が少ないと先生方は感じているのか（例えば、保育園は就業規則で退勤から次の出勤までは 16 時間あけなければならないと決められているところもある。職員の心と体を守ることは、何よりも子どもの命を守ることにつながるからだ）。教員として人間であり、心と体があってこそ教壇に立てるので、この高い志を維持継続、もっと高めるためには何が必要なのか。私たちが協力できることは協力していきたいと考えている。

- 学校運営協議会対象の教育評価の結果も概ね高い評価となっている。これは先生方が教育活動を熱心に行っていることを、学校運営協議会の委員それぞれが評価した結果だということをこの場で確認してこの評価委員会を閉じたいと思う。